

へくのへ

議会だより

Vol.232

令和6年2月14日
発行



奏楽の調べと舞で魅了!

(伊保内高校江刺家神楽／九戸の山伏神楽祭典)

令和5年第4回定例会

もくじ ● CONTENTS

産前産後期間分の国保税を免除 ほか …… 2

議員は何をしているの?・住民懇談会 …… 4

常任委員会視察調査報告／学んでこれを生かす。 …… 6

村政を問う・一般質問に5人が登壇 …… 10

小さな太陽・明日をひらく子どもたち《山根小学校》 …… 16



(左手前から)下川原あみさん、悠斗くん、朝輝くん、雄大さん
=12月20日・1歳6カ月児健診の会場で

条例

国民健康保険

産前産後期間分の保険税を免除

子育て世帯の負担軽減のために条例改正

令和6年1月分の保険税から対象
第4回定例会では、子育て世帯の負担軽減、次世代育成支援などの観点から「国民健康保険条例の一部を改正する条例案」が提出され、全会一致で可決されました。
この条例改正により、令和5年11月1日以降に出産予定または出産した方の「産前産後期間」相当分の国民健康保険税の所得割額と均等割額が免除されることになりました。
なお、この軽減措置は令和6年1月1日施行のため、令和5年度においては産前産後期間のうち、令和6年

令和5年第4回定例会には、条例案5件と物価高騰に対する支援事業を盛り込んだ予算など6件の予算案が提出されました。慎重に審議を行い、全議案を原案のとおり可決しました。一般質問には5人が登壇し、これからの村政をたどりました。

会期 12月4日から8日まで

給与条例など4件を改正

- 九戸村議会議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部を改正する条例
●特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例
●会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例
期末手当の支給割合を国の例に準じ、次の表のとおり引き上げるもの。

Table with 2 columns: 職名 (Job Title) and 引上割合 (Increase Ratio). Rows include 議会議員、村長、副村長、教育長 (0.10 カ月) and 会計年度任用職員 (0.05 カ月).

- 一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例
一般職の職員の期末手当、勤勉手当の支給割合を国の例に準じ、それぞれ0.05 カ月分(定年前再任用短時間勤務職員は0.025 カ月分)、給料月額を平均1.9%引き上げるもの。

1月以降の分だけが対象となります。
産前産後期間
出産(予定)月の前月から、出産(予定)月の翌々月までの4カ月間。多胎妊娠の場合は、3カ月前からの6カ月間となります。

物価高騰支援事業などに4267万円

追加提案の一般会計補正予算(第7号)を可決

追加提案のあった物価高騰への支援事業4063万3000円、後期高齢者医療広域連合医療給付費負担金203万8000円を内容とする一般会計補正予算を全会一致で可決。予算総額は、53億9691万円1000円となりました。



生活者応援商品券交付事業
1371万3000円
住民税非課税世帯を除く村民に生活支援のための商品券を配布
・金額 1人3000円
※ 住民税非課税世帯に対しては、1世帯当たり7万円が別に給付されます。【関連記事4号】

飼料価格高騰対策支援事業
739万5000円
畜産農家に対し、月齢に関係なく次の経営支援助成金を支給
・助成額
乳用牛 1頭 1万円
肉用牛 1頭 7000円

燃料価格等高騰対策支援事業
1952万5000円
農業者や小規模事業者に対し、次の経営支援助成金を支給
・助成額 令和4年確定申告書・収支内訳書記載の動力光熱費等に物価上昇係数7.98%を乗じた金額(上限20万円)

予算

特別会計・事業会計4件

- 農業集落排水事業特別会計補正予算(第1号)
予算総額に8万4000円を追加し、3795万3000円としました。内容は、令和4年度起債借入額の償還額確定による増額です。
●下水道事業特別会計補正予算(第3号)
予算総額に33万9000円を追加し、1億6064万円としました。内容は、職員給与の改定や令和4年度起債借入額の償還額確定などによる増額です。
●索道事業特別会計補正予算(第1号)
予算総額に148万6000円を追加し、1679万1000円としました。内容は、電気料金高騰による光熱水費の増額と仮設トイレのレンタル料金です。
●水道事業会計補正予算(第2号)
職員給与の改定に伴い予算の総額は変更せずに修繕費を減額し、給与費を増額するものです。

一般会計に5917万円追加(補正第6号)

予算総額に5917万6000円を追加し、53億5424万円としました。

追加された主な予算

- デマンド交通運行事業費補助金 1862万7000円
Q 補助内容と村民のメリットは何か【関連記事15号】
A 補助金は、令和6年度導入予定のデマンド交通の準備費用である。循環バスを廃止して移行するものだが、九戸地域診療センターでの待ち時間を解消したり自宅に近い場所で乗下車できるなど利便性の向上を一番の目的としている。
●特定地域づくり事業協同組合設立等支援補助金
256万8000円
Q 補助金の内容は何か【関連記事6・7号、12号】
A 組合設立の費用を支援するもので、資本金180万円、そのほか事務所開設費などである。
●あったか生活支援事業 405万3000円

全11議案のうち、9議案が全会一致で「可決」されました。



第4回定例会 賛否が分かれた議案

久保えみ子議員
反対
▶議会議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部改正
▶特別職の職員の給与に関する条例の一部改正
議員や特別職の期末手当を引き上げる前に、村民の所得向上、福祉政策の充実などを最優先にして取り組むべきであり、条例改正に反対する。

Table with columns: 議案名 (Proposal Name), 議員氏名 (Council Member Name), and 審議の結果 (Deliberation Result). Rows include '九戸村議会議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部を改正する条例' and '特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例'.

※「○」…賛成、「×」…反対、「欠」…欠席、「-」…桂川議長は、賛否同数などの場合にのみ採決に加わりません。

議員は何をしているの？

議員や議会は何をしているの？という声を聞きます。ここでは、議会や議員の主な活動状況をお知らせします。

- 10月
- 5日 北部地区町村議会議長会県政要望
 - 6日 平庭地域市町村議会議員連絡協議会総会
 - 16日 産業民生常任委員会村外行政視察調査 ～17日
 - 24日 九戸村村政調査会
 - 26日 総務教育常任委員会村外行政視察調査 ～27日
- 11月
- 9日 議会広報常任委員会
 - 14日 第3回臨時会(議案審議)
 - 22日 産業民生常任委員会住民懇談会
 - 27日 議会運営委員会、九戸村村政調査会
 - 29日 町村議会議長全国大会

- 12月
- 4日 第4回定例会(議案上程) 常任委員会、議員全員協議会、九戸村村政調査会
 - 7日 第4回定例会(一般質問)
 - 8日 第4回定例会(議案審議)



平庭地域市町村議会議員連絡協議会総会

訃報

櫻庭豊太郎議員逝去



九戸村議会議員 櫻庭豊太郎氏(81歳)が去る2月8日にご逝去されました。故櫻庭豊太郎氏は、平成15年6月に初当選以来、村議会議員を通算5期、17年目の奉公中でした。

その間、村議会議長や議会運営委員長、常任委員長、二戸地区広域行政事務組合議会議員などを歴任され、地方自治の進展と九戸村政の発展に多大な貢献をされました。

ここに、故櫻庭豊太郎氏の生前のご功績をたたえるとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。



生活支援、コロナ対策など 一般会計予算に7998万円を追加



●長期債元金償還金等

.....1308万3000円
過疎対策事業債と減収補填債に事務処理の誤りで超過借入れがあったことから、加算金等を加えて繰り上げ償還するための経費です。その内訳は次のとおりです。

- ・長期債元金償還金 1287万5000円
- ・加算金 19万7000円
- ・繰上償還手数料 1万1000円

問議員 繰り上げ償還をしなければならなくなった経緯は？

答総務課長 過疎対策事業債は、実績額で借り入れするべきところを予算額で借り入れしたこと。減収補填債は、限度額を超えて借り入れしたことによる。いずれも制度の理解と確認事務に不足があったことによる。

問議員 加算金と繰上償還手数料は、一般財源で負担することになる。村民の負担が増えるが、村長はどう考えているのか。

答村長 村民の皆さんにご迷惑をかけ、大変申し訳なく思っている。5年前にも同様のことがあったが、チェックの仕組みをこれまでに改善できていなかったことは、反省すべきことだ。今後、このようなことがないように事務処理の体制を構築したい。

令和5年第3回臨時会は11月14日に開かれ、村長から提出のあった令和5年度一般会計補正予算(第5号)を審議し、全会一致で原案のとおり可決しました。これにより一般会計予算は7998万3000円が追加され、総額で52億9506万4000円となりました。

－補正予算の内容－

●ワクチン接種予約受付業務委託料

.....320万円
新型コロナワクチン接種の予約受付業務を委託する期間の延長を行うための経費です。

●住民税非課税世帯臨時特別給付金

.....6370万円
エネルギー・食料品等の価格高騰の影響が大きい住民税非課税世帯に対し、本年度実施した臨時特別給付金の追加給付として、1世帯7万円を支給するための経費です。

議長交際費を公表

月	お祝い・会費	
	件数	金額
10月	1件	3,000円
11月	0件	0円
12月	2件	20,000円

※ 議長交際費とは、議長が議会の対外的活動を行うための経費です。各種団体の総会や式典の会費などが主なものです。

J A 新いわて二戸酪農生産部会・北いわて和牛改良部会九戸支部と

産業民生常任委員会との懇談会 / 11月22日開催



2 経営者の支援策はもとより、将来の農畜産業の在り方を視野に入れ

必要と考える四つの振興策



1 本村の酪農・和牛繁殖農家の役割(耕作放棄地の解消など)を再認識した支援策の実施のほか、農地を守る観点からも飼料価格高騰対策支援事業等の短期的な支援だけでなく、長期的な視点に立った農畜産業への支援。

2 村内はもとより他市町村の農畜産業の現状を把握し、実情に合った継続的な補助制度。

3 村内の経営者や二戸営業経済センター、近隣市町村等との連携を密にした時代に対応する支援策。

4 第三者継承など、新しい発想による後継者不足解消の取り組み。

3 村内はもとより他市町村の農畜産業の現状を把握し、実情に合った継続的な補助制度。

4 村内の経営者や二戸営業経済センター、近隣市町村等との連携を密にした時代に対応する支援策。



参加者の皆さん

思われる事項を「住民懇談会実施報告書」としてまとめました。議会では、活動を通じて諸課題の解決に向けて取り組んでいくこととし、報告書を村長へ届けました。

ここでは、振興に必要な施策として取りまとめた事項をお知らせします。懇談会にご参加いただいた皆さん、ありがとうございました。

懇談会終了後、常任委員会では会議を重ねながら、今後の振興に必要なと

明日を一緒に考える



産業民生常任委員会では11月22日、J A 新いわて二戸酪農生産部会(田澤松雄部会長)、北いわて和牛改良部会九戸支部(千葉孝支部長)との懇談会を行いました。

当日は、両部会から合わせて11人が参加。「酪農家、和牛繁殖農家の現状と課題」「飼料高騰に対する対策」をテーマとし、二戸営業経済センター畜産課の大崎佳智利課長補佐と九戸村産業振興課の川原憲彦課長の助言を得ながら、現状や課題について意見を交わし、振興策について考えました。



10/17 視察調査・秋田県東成瀬村

東成瀬村地域づくり事業協同組合

マルチワークにより人手不足解消と新たな雇用の場をつくる



東成瀬村地域づくり事業協同組合の尾形新一代表理事(右から3番目)と東成瀬村役場庁舎前で

学んで
これを
生かす。

視察調査 報告

「人口減少対策」のヒントを探る

直面する人口減少社会、少子高齢化の加速などにより維持・発展が難しくなる自治体も出てくると予測される中で、私たち九戸村に住む者と子育てや起業などのチャンス場として移住を希望する人々が、共に「住みたい。住み続けたい」と感じることができている「むらづくり」には、どのような施策が有効なのか。産業民生常任委員会と総務教育常任委員では視察調査を行い、先進事例などからそのヒントを探りました。

本村と同じように人口減少、少子高齢化が進む秋田県東成瀬村(人口約2400人)では、特定地域づくり事業協同組合制度(組合制度)を活用して、東成瀬村地域づくり事業協同組合(組合)を設立。「特定地域づくり事業」により、地域の維持と経済の活性化を図っています。

▼組合の概要

- 特定地域づくり事業協同組合の認定を受け、令和3年1月から労働者派遣事業を実施しています。
- 組合員数 10事業者
- 組合員の事業分野 農林業、食品加工業、宿泊業、スキー場運営等
- 派遣職員 5名(2名が村外から就職。うち1名は移住)

マルチワークという新しい働き方

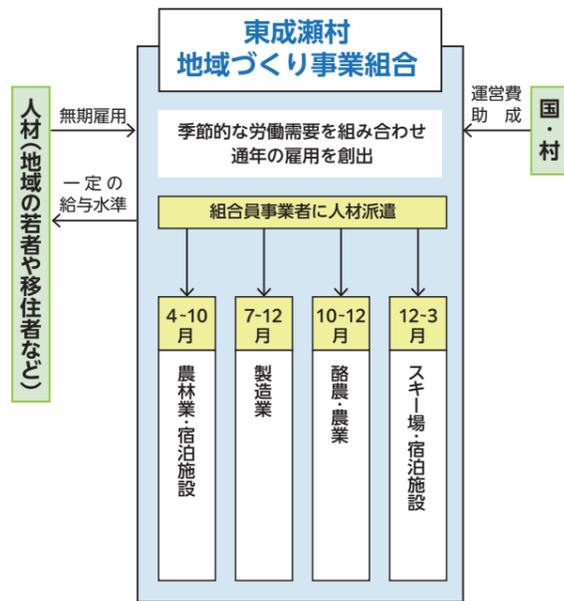
マルチワークとは、季節や時間ごとに、複数の仕事に従事する働き方を指します。例えば、春から秋にかけては農林業で、冬はスキー場で働くというようなものです。

特定地域づくり事業は、地域産業の担い手を確保するため複数の事業者で組合を設立し、組合が正規雇用した職員をマルチワークにより、組合員である事業所に労働者として派遣するものです。

成果もあるが課題も

組合では、「繁忙期における人手不足の解消」「通年雇用の創出」「若者の地元定着や移住」を成果としつつ、次の事項などを課題として挙げています。

- 派遣職員の年間を通じた派遣先の確保。
- 給与や待遇の向上・改善、住居の確保など。
- 派遣職員の応募者が少ないこと。



10/16 視察調査・秋田県羽後町

道の駅うご 端縫いの里

魅力を高めることで観光の「目的地」に

「道の駅うご 端縫いの里」は、日本三大盆踊りと呼ばれる西馬音内盆踊りの町、秋田県羽後町(人口約1万3500人)の道の駅。産業振興、観光拠点としての役割が評価され、東北道の駅大賞を受賞しています。

民間企業が運営し地域の特性を生かす

施設は、民間企業が指定管理により地域の特性を生かして運営。課題を整理し、目的を明確にして事業を展開しています。年間の来客者数は約

78万人(レジ通過者)で、農産物直売所の販売額は、会員1人当たり約100万円となっています。

施設の魅力を高める

「西馬音内盆踊り」を事業の題材に取り入れたり、歴史ある「西馬音内そば」をカフェテリア方式で提供。また、町に喫茶店がないという声を取り入れたカフェ、酪農家支援のために町内産素材を活用したジェラートショップをオープン。新商品開発や農業体験の受け入れなどにも取り組んでいます。

「道の駅うご」が掲げている課題と対策

課題	対策
施設維持費の増加	黒字経営による内部留保
社員が働きやすい職場	働き方改革の実践。「頑張り」が報酬に反映する仕組みの確立
生産者の加齢・農業離れによる生産基盤の縮小	規格外品を含めたオール販売などによる所得向上の支援。「道の駅を活用」した多様な営農スタイルの取り組みを促進
急激な人口減少(施設としての取り組み)	町民が誇れる魅力ある施設となることで羽後町ファンを増やし、交流・関係人口を拡大

ここに注目!!

村内事業者の労働力不足解消のため、雇用の受け皿となり村の活性化につなげるためには、労働力の需給調整を担う有能なコーディネーターが必要。



川戸茂男委員長

東成瀬村は平成の大合併で自立の道を選び、村持続の取り組みを行っている。九戸村は今、村民が積極的に発言し、みんなで知恵を出し合うときだと思う。



坂本豊彦副委員長

特定地域づくり事業協同組合の経営には、村民の信頼があり、強い指導力のある方を代表理事に選任し、さらに派遣先の調整を行う職員の確保を図るべき。



古舘 巖委員

ここに注目!!

民間企業が運営する道の駅は、社長自ら現場に立ち、月1度の役付社員会議を行い社員の発想を取り上げて運営することで、社員のやる気を出していた。



渡 保男委員

「トップダウンだけでは、社員のやる気と良い仕事につながらない」と言っていた。社長自ら現場に立って状況を把握し、感じることも大切だと思った。



高崎覺志委員



建物の外観は、西馬音内盆踊りの藍染め衣装をモチーフにした藍色と真っ赤な帯。ギザギザの屋根は、周辺の山々を表している



宮守川上流生産組合の菊池文彦事務局長（前列右）と地区集会所施設副所長

10/26 視察調査・岩手県遠野市

農事組合法人
宮守川上流生産組合
「一集落一農場」を掲げ地域づくり

宮守川上流生産組合は「一集落一農場」構想により、集落営農と地域づくりを展開する遠野市の農事組合法人です。
同組合は、ほ場整備事業（面積101ヘクタール）を契機に地区の全農家183戸で発足した任意組合でしたが、組織目標の明確化と事務管理体制強化のために法人化。現在は、効率的農業の推進だけでなく加工場の設置による6次産業化、直売所を核としたイベント開催や景観形成など、多岐にわたる地域づくり活動を行っています。

ここに注目!!

地域農地を集約し、101ヘクタールの規模はすごい。組織の中心となった人材は、すごい人だと感じた。「一集落一農場」を次の世代につなげてほしい。



大崎優一委員

少子高齢化が進む中山間地域で、「一集落一農場」の理念の下、地域ぐるみで集落営農を実践している。本村でも、新しい発想で取り組むことが必要だと思う。



桂川俊明委員

「一集落一農場」構想

集落営農に地域ぐるみで取り組むことで「農業生産の協業を図り、生産性を向上させ、共同の利益を増進する」というもの。

10/27 視察調査・岩手県盛岡市

インクルいわて 認定NPO法人
ひとり親世帯を子ども食堂などで支援

ここに注目!!

少子化対策と貧困の定義が勉強になった。人間は、人と関わって暮らすことが大切だと感じた。多くの人と交わることのできる環境づくりを大事にしたい。



久保えみ子委員

子ども食堂は食事を提供することだけではなく、そこに集まる人々がつながることで孤立を防ぎ、居場所づくりになるといい。「ぜひこの活動を」と思いました。



保大木信子委員



山屋理恵理事長(左)と子ども食堂総括の川守田栄美子さん=インクルいわて事務所

盛岡市の認定NPO法人インクルいわては、ひとり親と子どもが楽しく健康で文化的な生活を自ら歩むことができる包摂された社会を目指し、ひとり親世帯と地域住民を対象とした就業支援事業、生活支援事業、地域連携事業などを行っています。
▼令和4年度自主事業の実績
①子ども食堂②シングルマザーの包括的支援(インクルすてーしょん、就活支援、親子の生活・物資支援)③年末年始応援(一緒におせち)④企業との連携事業(被災地との交流)

10/26 視察調査・岩手県宮古市
里の駅おぐに 総合交流促進施設
旧小学校を地域活性化の拠点として活用



閉校となった小学校の校舎を再利用して整備された「里の駅おぐに」

宮古市小国総合交流促進施設「里の駅おぐに」は、閉校した旧小学校の校舎を改修し、国道340号を利用するドライバーの休息と地域住民の交流促進を目的に整備された施設です。
里の駅として活用されているのは、木造2階建て校舎の1階部分。また、フードコートのいすや机も、旧小学校で使われていたものを再利用しています。

施設の管理運営は
地元のNPO法人

里の駅があるのは、宮古市と合併した旧川井村小国で、本村と同様に人口が減少し、高齢化率が高い地域です。
里の駅は、宮古市が開設。管理運営は、その

運営法人として地元有志で立ち上げたNPO法人小国振興舎が指定管理で行うことで、地域活性化の場となっています。

▼施設の概要

産直コーナー・売店、フードコート・休憩コーナー、厨房、菓子製造室、トイレ、展示・インフォメーションスペースなどで構成されています。

交流と暮らしの拠点

小国地区では商店の数が減少し、運転免許証の返納で買い物に困る高齢者が増えていることから、里の駅の売店では、生活用品を充実。直売所に農産物を届けに来た住民が雑談を交わし、生活用品を購入して帰るなど、暮らしを支える役割も果たしています。

●「里の駅」整備の歩み

平成22年 川井村と宮古市が合併。移動市長室の開催を契機に、小国地区でワークショップが立ち上げられ、「地域をどうするか」をテーマに話し合いが始まる。
平成24年 「里の駅構想」が、ワークショップを続ける中で浮上する。
平成27年 小国小学校が閉校。同小学校校舎を活用した「里の駅」整備の方向性が決定する。
平成30年 工事に着手
令和元年 里の駅開業

ここに注目!!

視察調査を終え、本村の小学校廃校後の校舎活用については、地域で「どうするか」をテーマに話し合い、地域の力で有効活用が図られること願っています。



中村國夫委員長

里の駅おぐには、廃校後の学校を活用した交流施設で、改修に1億5000万円をかけたこと。本村でも小学校廃校後の活用に、十分な検討が必要と感じた。



岩瀬智幸副委員長



村長立候補時の公約10項目の進ちょく状況を示せ

村長 ▶ コロナ禍に見舞われる中ではあったが、できる限りのことをしてきた

実」では、給食費を高校
備などを行った。
③「子育て支援の充
外留学生の受入れ、寄
宿舎的な宿泊施設の整
入費助成や育英奨学金
の返還免除に加えて県
支援強化」では、制服購
少対策を強化した。
②「伊保内高校への
推進」では、制服購
室を設置。若者定住促
進住宅の入居要件見直
し、移住奨励金の創設
や地域おこし協力隊を
採用するなど、人口減
少対策を強化した。



答弁する晴山村長

園 村長は、立候補の
際、10項目の重点政策
を公約し、村政に取り
組んできた。公約の進
ちょく状況を示せ。

園 引き続き村政を担
い、村長選挙に立候補
する意思があるか。

村長選挙へ再度 立候補の意志は

村長 質問に「イエ
ス」か「ノー」で答える
とすれば、「イエス」で
ある。ナインズプロジェ
クトをさらに進めると
ともに、深めていくこ
とに力を注ぎたい。

①「人口減少対策の
推進」では、I-U戦略
室を設置。若者定住促
進住宅の入居要件見直
し、移住奨励金の創設
や地域おこし協力隊を
採用するなど、人口減
少対策を強化した。
②「伊保内高校への
推進」では、制服購
室を設置。若者定住促
進住宅の入居要件見直
し、移住奨励金の創設
や地域おこし協力隊を
採用するなど、人口減
少対策を強化した。

④「農林商工業など
の産業振興の方策」で
は、生産基盤整備事業
に係る補助の拡充、営
農指導強化、6次産業
化への補助金創設など
を行った。林業では、木
の駅を整備して自伐型
林業を普及。産業全般
では、産業活性化支援
助成事業を創設した。
⑤「教育環境整備の
促進」では、小学校統合
に向け条例を改正し、
準備を進めている。ま
た、通学バスの対象拡
大、エアコン整備など教
育環境を整備した。社
会教育分野では、宅配

生まで無償化、村単独
の子ども手当の創設な
どを実施。子育て支援
には、異次元ともいえる
取り組みを行ってきた。
⑥「保健福祉の充実」
では、带状疱疹予防接
種への新規助成、「ほず
のいえ」の整備・運営、
75歳以上の村内バス無
料化などを行った。
⑦「住民自治の推
進」では、地域振興交付
金や小型除雪機の配置
などが各行政区の課題
改善につながっている。
⑧「安全安心の村づ
くり」では、防災行政無
線戸別受信機を希望世
帯へ配備、九戸分署新
築移転や消防団員の待
遇改善などを行った。

⑨「環境保全対策
の推進」では、パークビ
レッジ構想には、まだ手
を付けられていないが、

園 国道340号長興
寺上地区の歩道整備事
業の今後の実施は、ど
うなっているか。
整備に当たっては、一
戸口交差点付近の事故
を防ぐため、右折レー
ンを設ける必要がある
。県に強く要望する
べきではないか。



登校する長興寺小学校の児童

長興寺上の歩道整備早期に

村長 歩道整備事業は
測量調査設計、地元や
工事関係者への説明を
終えている。本年度から
7年度で用地買収と物
件補償、7年度と8年
度に工事を行う予定で
ある。この事業は、県営
事業であることから、県
に照会して答弁した。
一戸口交差点の改良
については、これまでも
県に要望している。市町
村要望では、「早期整備
は難しい状況だが、交
通量の推移や公共事業
費の動向を見極めなが
ら総合的に判断してい
く」との方針が示され
た。村では、引き続き強
く要望していく。

環境美化推進条例を制
定。木の駅による里山の
景観維持保全などにも
取り組んでいる。
⑩「財政の健全性の
維持」では、大きな事業
の実施で令和3年度は
プライマリーバランスが

赤字となったが、4年度
は黒字に転じている。村
長給与に関しては、公
約どおり減額している。
コロナ禍で厳しい村
政運営を余儀なくされ
たが、できる限りのこと
はしてきた。



～村政を問う～ 一般質問に5人が登壇

令和5年第4回定例会での一般質問は12月7日に行われ、5人の議員が一般質問に登壇し、活発な議論が展開されました。掲載している内容は、紙面の都合で要約しています。
※ 全文記録(議事録)は、村ホームページでご覧いただけます。

質問議員(質問順)	質問事項	掲載ページ
高崎 覺志 議員	○村長の重点政策の取り組みについて ○長興寺上地区の歩道設置について ○パークビレッジ構想について	11
中村 國夫 議員	○本村の農業振興について ○四村サミットについて ○AIの導入について	12
保大木信子 議員	○教育環境整備について ○学童保育の目的・役割の充実について	13
坂本 豊彦 議員	○主要施策推進に向けた各種事業の取り組み状況について ○地場産業の振興策について	14
久保えみ子 議員	○物価高騰から住民を守る対策について ○デマンド交通について ○高すぎる国保税の引き下げについて	15

一般質問とは、議員が村の行財政全般にわたり、事務の執行状況や将来に対する方針などについて所信を聞き、報告や説明を求め疑問点をたずねることです。
九戸村議会では、一人60分以内の制限時間で質問を行います。

※ 一般質問は、アクリルパーテーションを設置した上で、マスクをはずして行っています。

次の定例会は
3月4日からの
予定です



傍聴席から

議会を傍聴してみませんか?
議員が議会でもどのような発言をしているのか。村がどのような施策を行おうとしているのか。一度、議会を傍聴してみたいか、がでしょうか。



第4回定例会の一般質問を傍聴する皆さん



高齡化と後継者不足の中で 今後の農業振興をどう進めるのか

村長 ▶ 特定地域づくり事業協同組合など 多様な担い手の確保・育成を進める

問 本村の基幹産業である農業は、高齡化の進行や後継者不足などで厳しい状況に置かれてはいるが、甘茶が新型コロナウイルスの感染抑制に効果があるとの新聞報道や「まさざねネギ」のブランド化の発表など、今後の展開に強い期待感を抱いているところである。

村長はこうした中で、農業振興をどう進めていく考えているか。

村長 今後の農業振興の課題は、後継者不足と人手不足の解決であると考えている。後継者の問題では、収入面の要因もあることから野菜価格安定補償制度の継続や商品のブランド化、営農指導強化などによる所得向上の支援。ナインズファームの新規研修者確保に取り組みたい。人手不足は、他の産業でも深刻な状況である



「四村サミット共同宣言」を発表する(左から)佐々木靖田野畑村長、疋屋伸夫普代村長、晴山裕康九戸村長、小田祐士野田村長=10月13日、盛岡市

「四村サミット」狙いは何か

問 本村と野田村、普代村、田野畑村の県内全4村の村長が、盛岡市内の大型商業施設で行われた物産展において、「四村サミット共同宣言」を発表した。その狙いと成果を示せ。

村長 県内33市町村の内訳は、市が14、町が15、村が4で、村の数が

一番少ないことから、そのことを逆手に取ったのが「4村サミット」の着想である。理念は、「四つの村は、小さいながらも、歴史と伝統のある地域を営々と築いてきた。(中略)私たちは、それぞれ村民であることに誇りを持ち、これからも素晴らしい村を創っていく」と共同宣言の中に掲げている。

狙いとしては、今回の宣言を契機に、四村が関係を深め、協力し合い、知恵を絞り、情報発信に努めることで、それぞれの村の発展・振興はもとより、本村において



「まさざねネギ」をPRするネギ栽培農家の七戸宏太さん(右)とまさざねくん

※ 「特定地域づくり事業協同組合」については、3ページに関連記事。6ページと7ページに視察調査内容を掲載しています。

では「誰もが住みたい、住み続けたい村」実現の一助となることを期待している。成果は、共同宣言後の物産展で、4人の村長がトップセールスにより村の魅力や観光、特産品の情報発信を行ったことである。また、宣言を受けて事務レベルでは、定期的に会議を開いて産直施設の商品連携、郷土芸能団体や職員交流のほか、観光資源なども共有・連携できないか検討している。今後もさまざまな分野で、成果を出せるように話を重ねていきたい。

また、農業維持のために作成する「地域計画」でも、状況に即した対応を協議していく考えだ。需要が増えている甘茶に関しては、生産と販売体制の強化を指示している。

り、九戸村総合公社では、福祉施設から労働提供を受けている状況である。今後は、設立予定の特定地域づくり事業協同組合(※)や新聞報道のあったフィリップロモリスジャパンの農業支援にも期待している



活動方針などを協議した第1回統合準備委員会=8月8日

教育長として小中学校再編をどのように考えているのか

教育長 ▶ 村民の声を反映した再編指針であり 掲げた目標に向けて取り組む

問 本村の小学校は、児童数減少により複式学級が多い。教育長はこの現状をどう捉えているか。また、予定する小学校の統合・新設の進捗よく状況は、どうなっているのか。

教育委員会では、小中学校の再編を小中一貫校または義務教育学校のいずれかに移行する方向で進めている。教育長としては、どのよう

に考えているか。教育長 複式学級においては、工夫を凝らした丁寧な授業が行われている。しかしながら、国が目指す「協働的な学習」という面においては、授業内での協働的な学びの場が限定される。統合により、こうした現状の問題点を解決することが可能になると考えている。

小学校統合については、統合準備委員会の中の専門部会で着実に

指針の実行は

ある。教育長として、そこに掲げた目標に向けて説明を尽くし、理解を得ていきたい。

問 総合教育会議は、地方公共団体の長と教育委員会という執行機関同士の協議・調整の場とされる。村長として、この会議で決定したことを進めていくこと



九戸村食生活改善推進員協議会と細屋サロンが世代間交流を目的に開催した「こども食堂」=12月25日、細屋ふれあいセンター

学童保育へ昼食提供を

問 少子化は、就労と子育てのはざまで、親の負担が多すぎることも原因であると考

えられる。親の負担軽減を目的に、冬休みなどの長期休暇中に学童保育で昼食を提供

することを考えてはどうか。

村長 長期休暇中の昼食の提供を給食センターで実施できればよいが、調理機材が少人数に対応できないことなど、さまざまな点が難しい。村としては、地域や民間活力による「こども食堂」「フードドライブ(※)」などの活動に対し、支援すること

が現実的な解決策ではないかと考えている。

※ 家庭で余っている食品を集めて、必要としているフードバンク等の生活困窮支援団体、子ども食堂などに寄付する活動をいう。





令和6年度以降の地域おこし協力隊 任用計画と任用の見通しを示せ

村長▶ 継続隊員と新たな任用を合わせ 人数枠は本年度と同じ16人で進める

問 本村では現在、13人の地域おこし協力隊員を任用している。本年度末には、6人の隊員が任期を満了することになるが、来年度以降の任用計画、任用の見通しはどのようになっているのか。

村長 任期が満了する6人の隊員とは、任期後の進路を何度となく相談してきた。そうした中で、5人がコロナ禍で十分な活動ができなかったことから、「任期特例」により、任期を延長したい意向であることを確認している。

この特例を適用すれば、本年度で任期を終える本村の隊員は、1年間の任期延長が可能となる。村では、隊員が定住するための助走期間として、任期を延長することとした。

来年度以降の隊員の人数枠は、継続する隊員と新たに任用する隊員を合わせて、本年度と同じ16人として進めていく考えだ。

今後の甘茶振興策は

問 本村の甘茶は、新型コロナウイルスの感染防止に効果があると新聞報道され、需要が高まっている。

しかしながら、甘茶を一気に増反することは、かなり厳しい。これまでも研究機関の協力を



需要が高まっている甘茶。オドデ館では、「1家族2袋まで」と制限して販売されている=オドデ館

などを得て取り組まれてきたが、収益のことが、苗の増殖が非常に難しいこと、栽培・収穫作業などの問題もあって栽培面積の拡大に結び付いていない。

山積する課題を解決して地場産業を振興する

村長 甘茶は9月の新聞報道後、店頭の商品が瞬く間に売り切れ、取引注文が殺到するなど、需要が極めて高まっている。

業務用の販売価格を大幅に引き上げる方針を進め、生産者からの買取価格を1.5倍程度まで引き上げるなど、生産者に利益を還元できるように努めていきたいということである。

「任期特例」とは



地域おこし協力隊員の任期は、最長3年と定められています。しかしながら、コロナ禍により、任期中に十分な活動ができなかった隊員(令和元年度から3年度までの任用者に限る。)を対象に、隊員が3年を超える活動を希望し、受け入れ自治体が「任期の延長が必要」と認める場合には、任期延長の特例を認めるものです。



手作りの「木のおもちゃ」をプレゼントして保育園児と交流する地域おこし協力隊員ら

全世帯を対象に物価高騰対策を 実施する必要があると思うが

村長▶ 支援事業の実施に必要な予算を 本定例会中に追加提案したい



問 物価高騰で実質賃金は下がり続け、村民の暮らしは深刻である。非課税世帯に限定する国の給付金の枠を超えて、全世帯を対象とした生活支援金の給付が必要だと考える。

また、物価高騰の影響を受けた全ての事業者に対しても、本年度も支援事業を実施すべきだと思いませんか。

村長 国の給付金は、これまで住民税非課税世帯を対象とすることが多く、不均衡が生じていると感じていた。そのことから、村単独で均等割のみの課税世帯に対しては、電気ガス



物価の高騰は、村内事業者へ大きな影響を及ぼしている=産業芸術文化まつり産業部門

食料品等価格高騰緊急支援給付金5000円を。また、物価高騰対策生活支援給付金として村民一人当たり5000円を給付。全世帯対象としては、クーポンを配布している。今回、国の総合経済対策により追加交付される交付金では、全世帯対象の支援、そして昨年度に引き続き燃油価格高騰の影響を受けた農業者・小規模事業者と、飼料価格高騰の影響を受けている畜産農家を対象とする支援策を考えている。予算については、本定例会中に追加提案(関連記事3ページ)する考えである。

使いやすいデマンド交通に

問 村では、デマンド交通(※)を導入するために、住民アンケートを実施した。高齢者や体が不自由な人など、自家用車を使用できない人たちが安心して利用できるように村民の声をしっかりと聴いてこそ、公共交通機関の役割を果たせるものと考えられる。

村長 来年度から予定するデマンド交通の導入は、運転手不足など公共交通を取り巻く環境が厳しくなる中で、現在村内を運行している循環バスの利便性をさらに高めるために、事前予約制ではあるが従来のバス停や運行時間に縛られることなく、利用者のニーズに応えられるような公共交通を



平成17年度から運行されている九戸村循環バス。九戸地域診療センター利用者からのデマンド交通導入に向けたヒアリングでは、「循環バスは待ち時間が長い」などの声も出されている

また、大型バスを小型のワゴン車両に変えることで、狭い道路も走行でき、利用者の自宅近くで乗下車できることや乗り降りも比較的内容易になるといった点では、高齢者にやさしいものになるかと期待している。車いす利用には車両改造が必要となるほか、介護資格者の乗車や許認可も必要であり、バス運行事業者が行う公共交通の範囲を超えてしまう。予約システムは、使いやすいことが大事であり、担当部署に指示している。バス料金の無料対象者拡大に関しては、検討事項とさせていただきます。

※ 予約する利用者に応じて、運行する時刻や発着地などを自由に組み合わせることができる交通方式のことで、予約がある場合にのみ運行される。

小さな太陽

=明日をひらく子どもたち=



キラキラ輝く瞳。大きな夢なら負けません。

このコーナーでは、そんな太陽のような目をした子どもたちに登場してもらいます。

自然を生かし

笑顔あふれる村

山根小学校 6年 久保田 泰成さん

九戸村には、人口減少や観光客数が少ないなどの課題がありますが、たくさんの自然があるという良さもあります。そこで、自然を生かした遊びを通して、未来に向けて人と人とのつながりを増やすために、二つ提案をします。

一つ目は、くのへスキー場を利用した「宝探し」です。雪の中に宝を隠し、スキーやスノーボードをしながら宝探しをするイベントです。冒険をしているような、ワクワク感を感じることができそうです。広く宣伝すれば、たくさんの人に九戸村に来てもらい、良さを知ってもらえると思います。

二つ目は、瀬月内川の緩やか

大好きな山根小
卒業まであとわずか。
これからも
よろしくね!!



「卒業日めくりカレンダー」の前でポーズを取る久保田さんと6年生の児童

な流れの場所に「ござ」を浮かべて、その上を走る「ござ走り」です。川遊びを通して、瀬月内川の良さをたくさんの人に知ってもらうことができるでしょう。ぼくたちの村には、たくさんの自然があります。それらを生かした取り組みを続けられれば人とのつながりが増え、笑顔あふれる九戸村になると思います。



あ と が き

● コロナの行動制限が緩和されたことから昨年10月に、これまでできなかった視察調査を、各常任委員会で課題解決に必要なテーマを選び実施しました。

● 今回の「議会だより」では、議員がその視察で見て、聞いて、実感したことを掲載しました。今後は、視察の成果を生かすことが大切だと思っています。

● 私たち議会広報常任委員は、分かりやすく、親しみやすい「議会だより」の発行に努めたいと思っています。取材の際には、ご協力をお願いします。

議会広報常任委員長 坂本 豊彦

◆ 発行責任者 副委員長 保大木信子

議長 桂川 俊明 委員 渡 保男

◆ 議会広報常任委員会 委員 岩淵 智幸

委員長 坂本 豊彦 委員 高崎 覺志

表紙の写真紹介



表紙の写真は、「九戸の山伏神楽祭典」で江刺家神楽を披露する伊保内高校郷土芸能委員会の皆さんです。奏楽の調べにのせ、ひた向きに舞う姿に会場から感動の拍手が送られました。

vol.232

令和6年2月14日発行

発行/九戸村議会
編集/議会広報常任委員会

〒028-6502 岩手県九戸郡九戸村大字伊保内10-116
電話：0195(42)2111(代) FAX：0195(41)1005
E-mail: gikai@vil.kunohi.iwate.jp